

Lesson 9 I want to be a teacher. 将来の夢を紹介しよう

◇英語ノートLesson9 に紹介されているゲーム



ジェスチャーゲーム（第1時）

- ・HRTが職業の様子をジェスチャーで示し、児童は日本語か英語でその職業を予測して答える。（クイズ形式）
 - ・正解したら、職業絵カードを見せてALTが正しい発音で聞かせる。（英語ノートデジタル資料を活用するのよ）
- HRTがジェスチャーを見せることは、第4時でのスピーチや第3時での夢あてっこゲームなどの児童の活動の見本となる。

ピングゲーム（本単元第1時で活動）

- ・巻末絵カードを使用する。（予備カードに他の職業の絵を描いたものを使用しても良い。）
 - ・英語ノートP57のシートにカードをならべる。
 - ・クラスみんなで“What do you want to be?” ALTまたはHRTが“I want to be a ~.”と職業を選んで言うので、聞き取ってカードをとる。（HRTとALTのやりとりでも可）
 - ・縦、横、ななめ1列の絵カードが無くなったら“Bingo!”と言う。
- ピングゲームでは、楽しみながら無理なく何回もたくさんの職業の言い方や尋ね方の聞くことができる。

かるたゲーム（本単元第2時で活動）

- ・グループまたはペアで巻末絵カードを1セットならべる。
 - ・ALTまたはHRTが話す職業のカードをとる。
 - ・たくさんカードを取った児童の勝ち。（ただし、ラッキーカードをHRTが決め、英語を聞いて理解することに苦手意識のある児童の勝ちにするのもおもしろい。）
- 学級担任が指導するからこそ、ラッキーカードなどの工夫が加えられる。また、この活動もたくさんの英語の表現を無理なく聞かせることができる。

チェーンゲーム（第3時）

- ・グループで縦1列に並ぶ。
 - ・各列先頭の児童は2番目の児童に“What do you want to be?”と尋ねる。2番目の児童は“I want to be a ~.”と答える。
 - ・これを繰り返し、最後尾の児童は先頭の児童のところへ行き同じように尋ねる。
 - ・先頭の児童が答えたら、全員で座る。
- 一人一人が発話しなくてはいけない活動であるが、グループの子がすぐに助けることができるので、あまり話すことに負担を感じないゲームである。

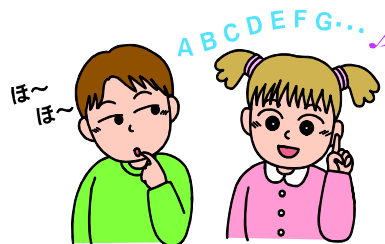
集中力ゲーム（第1・2時）

- ・各グループで丸くなって座り、真ん中に巻末職業絵カードを裏返して重ねて置く。
 - ・ALTまたはHRTが絵カードの中から4枚ぐらい選んで順番に言う。
 - ・各グループでそれらの言葉を聞き取り言い終わった“Let's start!”に合わせ中央のカードからそれらのカードを選び、聞いた順番通りに並べる。
 - ・各グループが並べ終わったら、全員で絵カードの順番を確認する。
- 話す枚数をどんどん増やしていくとグループで作戦を立てて覚えらるようになっておもしろい。（最高12枚くらいまではかなりよく覚えらる。）仲間作りの面でも有効である。

◇英語ノートLesson9 でできそうなゲーム

ペアさがしゲーム（matching game）（本単元第2時の活動）

- ・クラスの内2人が同じ職業の絵カードを持つ。
 - ・スクランブルでたくさんの友達のなりたい職業を尋ねる。
 - ・自分の持っているカードの職業になりたい友達を見つけたらゴール。
- 早くゴールすることもうれしいが、担任はたくさんの友達に声をかけた遅くゴールした子を評価することができる。



夢あてっこゲーム（本単元第3時の活動）

- ・スクランブルでインタビューを行う。
 - ・1人が将来の夢をあてる人、もう1人が自分のなりたい職業のヒントを出す人に分かれる。
 - ・ヒントを出す人は、1回のヒントで当たらないようにヒントを出すようにする。当てる人は、黙って聞いていないで、できるだけ反応しながら聞く。
 - ・2回、3回とやりとりしながら、相手の将来の夢が当たったら交代する。
- ヒントのやりとりをすることで、第4時のスピーチで使用する表現をふくらませることができる。何度も楽しく活動することでスピーチへの自信をつけることができる。

◇教室で簡単にできるゲーム

ドア チャレンジ（Hello challenge・Good-bye challenge）

- ・教室から英語教室に移動する場合、HRTは少し早めに英語教室へ行き児童をドアの前で待つ。
 - ・ドアの前でフラッシュカードなどを利用し、前時の活動を振り返るような簡単な質問を一人一人にする。
 - ・わからなかつたら後ろに並び直してもよく、HRTや友達に教えてもらってもよい。答えられたら、教室に入れる。
 - ・授業終了後も同じようにドアの前で本時活動した内容を確認する簡単な質問をする。答えられたら、教室を出られる。（ALTも参加してくれたら、二重のドアチャレンジができる。）
- このゲームは全学年の児童が大変楽しむことができる。HRTは一人一人の慣れ親しみの度合いを確認することができ、活動中誰を援助すればよいかよく分かる。（HRTだからこそ各児童にあわせた質問ができる。）